

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 1 1 回 次世代に引き継ぐ 淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会		
事務局 (担当課)	都市計画課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 7 (直通)	
	生涯学習課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 7 (直通)	
	公園課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 3 (直通)	
開催日時	令和 3 年 6 月 2 6 日 (土) 午後 2 時 0 0 分 ~ 4 時 0 0 分		
開催場所	W e b 会議		
出席者	市民検討会 委員	1 5 人 (1 1 ページのとおり)	
	有識者協 議会委員	5 人 (1 1 ページのとおり)	
	その他	2 人 (各施設担当者)	
	事務局	1 3 人 (都市計画課長、生涯学習課長、公園課長他 1 0 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会議次第	<開会あいさつ> 1 第 1 0 回市民検討会の概要について 2 市民アンケート調査結果について 3 相模原市行財政構造改革プランについて 4 今後の進め方に関する意見聴取について		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。（◎市民検討会委員の発言、○は有識者協議会委員の発言、●は事務局の発言）

1 経 過

都市計画課長による開会の後、要綱第5条第3項及び第6条第1項の規定に基づき、有識者協議会鈴木会長の進行のもと、傍聴の確認を行い、事務局から次第について説明し、その後、質疑応答を行った。

2 議 事

- (1) 第10回市民検討会の概要について
- (2) 市民アンケート調査結果について
- (3) 相模原市行財政構造改革プランについて

- 事務局から資料を基に説明を行った。
- 説明の内容が多かったので、色々質問があると思います。15時まで、質疑応答の時間としたい。その際、自分の意見を述べるのではなく、資料にあったような質問と回答といったやりとりができれば良いのではないかと。その点を意識しながら、質問していただきたい。

【質疑応答】

- ◎ 市民アンケートに関して、インターネット調査とモニター調査の両方を行う必要性について、アンケート調査の有用性について、アンケート調査の結果に対する事務局の感想について、の3点を伺いたい。

- インターネット調査とモニター調査の2つの方法については、調査対象の範囲が異なっており、インターネット調査は、淵野辺駅に近い方を対象にしている。一方、モニター調査については、近隣の市町村や相模原市の中央区以外の方を対象としている。そのため、2つの調査方法は妥当であったと考えている。

アンケート結果については、どの回答パターンも概ね5割以上の共感を得られていることから、市民検討会での検討に一定程度、市民の方の理解をいただけたと考えている。また、この結果については、今後の市民検討会の検討に活用していただきたい。

なお、どのパターンに対しても、財政面を課題に挙げているので、これからの市民検討会で検討する上でも、参考にして進めていただきたい。

また、公園中心パターンに対する課題として、公園の今の姿をなくさないような形での整備ということが出ているので、万が一、公園中心パターンでの検

討になった場合には、施設の配置や公園の在り方をよく検討する必要があると
考えている。

◎ 事務局は、市民の方に市民検討会の議論について、理解を得ているという捉
え方をしているということですか。

● そのとおりである。

◎ 市民アンケートに関して、市民検討会委員の任期が12月までだが、それま
での間に、もう1度実施されるのか。

● 今後の進め方については、市民検討会委員の方から意見聴取をする予定とな
っている。その中で、アンケート調査が必要といった意見があれば検討してい
きたい。

◎ 現時点で、事務局が再度アンケート調査を実施する想定はあるか。

● 現時点では、再度アンケート調査をするといった事は決めていない。

◎ 市民アンケートの結果の中で色々な意見が出ているが、それに対して市民検
討会で話し合う機会はあるのか。任期まで時間が少なくなっており、どこまで
できるのか不安である。

● アンケート結果の取扱いについては、これからの進め方についての意見聴取
で、どう活用したいのか等、意見を出していただきたい。

○ 検討会をあと何回できるのかという話が出たが、次回、今後の進め方につい
て議論し、その後、2、3回は開催できると考えている。そうでないと、検討
会としての提言やまとめといったものは出せないのではないかと。そのため、意
見を交換する機会がまったく無くなるというものではないと考えている。

● 今後の進め方について意見聴取を行い、市民検討会委員の皆さんがどのよう
に考え、検討会を進めていきたいのかを把握させていただきたい。

そして、この市民検討会が、充実したものとなるよう、皆さんの意見を尊重
しながら、時間の許す限り行っていきたい。

○ 是非そのように進めていただきたい。ただし、新型コロナウイルスの感染状
況等にも影響されるので、どれだけできるかわからないところもある。

◎ 資料の中に、自由意見の一覧という、重みのある意見がたくさん出ているが、
これらの意見は、回答者の想いがたくさん詰まっているように思う。

この中で大事なことを拾い上げることが、私たち市民検討会委員に課せられ
ているのか。

● 自由意見の一覧については、量が多いため、特徴的な意見、主だった意見を

本日の資料11、12ページに抜粋しているが、委員の皆さんには、時間の許す限り、目をとおしていただきたい。

◎ 以前、私たちが事務局に出したアンケートに関しても、議論されることなく、進んでしまった。今回これだけ多くの方に自由意見を記述していただいたので、市民検討会で議論しないまま進めてしまうのでは意味がないのではないか。

長寿命化計画では、80年使用を目指して改修を行っていくとのことだが、市立図書館、公民館、青少年学習センターについては、それに当てはまらない施設ということか伺いたい。

● 長寿命化計画について、築40年以上経っている施設というのは、この淵野辺の検討の中では、市立図書館、公民館、青少年学習センターの3施設となる。長寿命化計画の基本的な考え方としては、建設して20年後に中規模改修、40年後に長寿命化改修、60年後に中規模改修を実施して、80年使用するという考え方が一般的である。それを、築が浅い施設に関して、実施していくという考え方となっている。

◎ 図書館や公民館、青少年学習センターは中規模改修等を行っていないのか。

● 行っていない。

◎ 淵野辺駅南口周辺まちづくり事業の総事業費等、記載されている数字は、最初に相模原市が公表した淵野辺駅南口の計画案の数字なのか、それとも異なるのか。

● 総事業費等の数字については、平成29年度に示した、基本計画案の数字である。

◎ 基本計画案が出た時の市民の反応やパブリックコメントで寄せられた多くの意見、要望等があったと思うが、複合化という方向にどんどん進み、基本計画案が出たときに戻ってしまうのではないかと危惧している。事務局としての意見を伺いたい。

● 市民検討会での議論の方向性が決まっていれば、それを基にした数字等を試算に使用していた可能性があるが、方向性が決まっていなかったため、平成29年度の数字を使用して試算した。

◎ 人事異動で、事務局の職員は当初の職員がほとんどいなくなってしまったため、職員には当初のパブリックコメントを読み返して欲しい。また、今回のアンケート調査において自由意見が記述されているが、パブリックコメントで寄せられた意見と同じ意見なのか、それとも異なっているのか、検証していかないといけない。

● これからの進め方については、意見聴取の中で提案をいただきたい。

- ◎ 市民アンケートの結果について、世代毎に意見が分かれてくるのではないかと考えられるが、世代別のデータはあるか。
- 現在、世代別で集計した結果はないが、抽出することは可能である。必要であれば、次回以降の検討会で用意したい。
また、今回のアンケートについては、インターネットによる回答ということで、特定の世代に偏るという懸念もあったが、結果としては、万遍なく、幅広い世代から回答があった。
- ◎ 市民アンケート結果について、概ね50パーセント以上の共感を得たという説明だが、この自由意見等を読むと、公園やそれぞれの地域に思いを持っている方がたくさんいる。市の財政を踏まえつつ、その方々の思いをどれだけ汲み取り、納得いただいて、市民検討会として意見を出していけるのかということ、今の相模原市にとって、どのような話し合いや進め方が一番良い方法なのだろうかということ悩んでいる。
- そのような不安を共有することや、アンケートの自由意見をどのように汲み取って、どのように淵野辺の議論の結果に生かしていくかということが、これからの検討委員会の中で検討していくものではないか。また、事務局としても、そのような議論がうまく進むように、精一杯の手伝いをしていきたい。
- ◎ 事務局はアンケート結果を見てどのように思われたのか伺いたい。
- 平成29年度の計画案を出した時のパブリックコメントと同じような意見もあれば、市の財政や新型コロナウイルスを考えて、出来ることに挑戦した方が良いというご意見もあり、色々な意見をいただいたと思っている。
- 行財政構造改革プランの中で試算等が示されているが、「市民検討会の結果を踏まえ」という記述があることから、そこは担保されていると考えている。
財源の問題というのは市として大きな課題だが、今ある淵野辺南口周辺の施設については維持することになっているので、これは検討会の成果であると思う。しかし、その施設の使い勝手がどのようになるかは別にして、市としては複合化という方向で考えるということが出ている。それを、市民アンケートの自由意見に込められた思い、検討会の委員の考え方などと突き合わせていく作業をしていくことになるが、12月までの任期の間に検討していくのではないかなと思う。どのような手立てで考えていくかということ、これまで検討会で行ってきたことを参考にしながら、提案できれば良いのではと思う。

(4) 今後の進め方に関する意見聴取について

- 事務局から資料を基に説明を行った。
- 今日ここで無理にまとめるのではなく、今後の進め方について、12月31日までに、市民検討会の結論として固まったものを次の委員に引き継ぐのか、それとも、論点を整理して次期市民検討会委員に引き継ぐのか、そのあたりのことを意識して考えて欲しい。

【質疑応答】

- 次期市民検討会はあるのか。今期で終わりではないのか。
- 市民検討会の議論は、基本計画を策定するところまでを目標としており、12月末までに市民検討会における議論がそこまで達しなかった場合には、次の市民検討会委員に引き継ぐことになる。公募の委員については、本年10月頃に再公募する予定である。
- 「より具体的な検討」という説明があったが、今まで自由に意見を出すように言われ、そのような検討の回数が多すぎる、長すぎると思っていた。私たちは専門家ではないため、自由な意見を出しても、それが実現可能なのかは分からない。そういうところに対して、「技術的には可能だがコストがかかりすぎて難しい」など、有識者協議会委員から専門的な意見をいただき、検討できると思っていた。具体的な検討とは、私たちの持っている知識で何を検討することが求められているのか、また、どこまで話をするのかよく分からないまま、アイデアを出し続けてきた気がするので、これからの進め方に不安を感じている。専門家からの意見が欲しい。
- これまでも有識者協議会委員からアドバイスをいただきながら進めてきた。必要な情報は今後も適宜提供しながら進めていきたい。市民検討会委員が不安にならないように、努力していきたい。
- 残された時間があまりない。これまでの市民検討会のペースだと、とても心配である。次期市民検討会委員に引き継ぐためにまとめていく話になってしまうと、それもどうなのかという気がする。今後の進め方は気になっている。
- メールのやり取りを取り入れるなど、もう少しペースアップするやり方を工夫して欲しい。
- 市民検討会の進め方のペースが心配だ。12月末までにまとめることばかりを考えるのは嫌だし、このペースで来年も続けるのか、よく分からないまま引き継ぐというのも、不完全燃焼となってしまうことになる。人によっては、委員を続けることができない人もいだろうし、今後の進め方について話をしていけたらよい。

- 今いただいた意見を、回答用紙に記入して提出していただきたい。

◎ 市民アンケート結果について、どの検討パターンも「共感できる」や「どちらかと言うと共感できる」という答えが一定程度あったとの説明だが、アンケート自体が良いことばかり書いてあり、市が都合よく捉えているだけではないか。自由意見の欄には、異なる意見があり、その内容を重視すべきではないか。

行財政構造改革プランについても説明があったが、市民検討会としては、あまり捉われなくてもよいと考えている。検討方法については、鹿沼公園に関するのと淵野辺駅南口周辺のその他の公共施設に関するのと、この2つに大きく論点が分かれているため、それぞれに分けて議論した方がよいのではないか。元々、鹿沼公園内に公共施設を持ってくることについて反対があったことが、この検討会が始まった理由の一つだと考えている。

鹿沼公園について、アンケート結果をみると、公園内に公共施設を建てることに反対する意見と賛成する意見があり、たぶん反対意見の方が多と思う。できれば、第15回までにどちらにするか、明確にしていればと思う。その他の野球場やテニスコートの問題は、その大きな方針が決まった後に決めていけばよいのではないか。公園については、財政上の課題はあると思うが、近隣住民の意見を重視した方がよいと思っている。

その他の公共施設について、アンケート結果を見ると、大きな論点として、淵野辺駅南口に賑わいを求めるのか、住宅地として閑静な環境を求めるのかに分かれると思う。また、財政上の問題で、跡地ができた場合に売却して財源に充てるのか、緑地等にするかの意見に分かれると思う。第15回までにどちらにするか、明確にしていればと思う。

そこまで検討を行い、次の市民検討会委員に検討を引き継ぎたいと思う。相模原市は財政的に厳しいということは理解しているが、市民の意見を優先し、市民の意見に対して財政的に可能かどうか考えるべきだと思う。行財政構造改革プランありきの検討ではなく、大きな検討結果に基づき検討していただければと思う。

◎ 第10回市民検討会の中でも、市民アンケートの分類の仕方、文章の内容について色々意見を出したが、ほとんど採用されなかった。そういう状態で今後議論を進めてと言われても、意見が反映されないのであれば、やる意味がない。先ほどから予算の問題が何度も出ているが、複合化した方が分散型よりも安いといった考え方が以前示されていた。分散型の方がランニングコストは高くなるということは承知しているが、建築に関しては、新しく建てるという方法だけではなく、再生するという方法もある。数は少ないが、再生工法（リフ

アイニング)であれば、元々の建材をそのまま使用し、代替施設を使用せずに建設ができるということで、工期の短縮や建設費の削減ができる可能性がある。色々なやり方があるということを、事務局や有識者協議会委員から提示していただきたい。

- ◎ 市民アンケートについて、各検討パターン共通のアイデアを抽出し、アンケート項目とした方がよいのではないかという意見を出したが、採用されなかった。採用されなかった理由を伺いたい。
- アンケートに採用はできなかったが、市民検討会委員には共有をさせていただいた。
- ◎ 共有された後、他の委員と検討する機会がなかった。どのアイデアを採用するか、市民検討会委員に決定権がなかった。市民検討会委員が出した意見を採用するか否かが、事務局に委ねられており、意見を出しても一方通行で終わってしまう。それは、検討会としていかがか。意見のやり取りの仕方が、市民検討会委員が意見を出して、事務局として検討しますという回答をもらっているが、議会ではないので、今回はオンライン開催なので仕方がないと思うが、どんどん意見を出して、活発に議論できる土壌を作らなければ、いつまで経っても、意見を言うだけになってしまい、鹿沼公園内に公共施設を建てて欲しいと考えている人と、公園は絶対に守りたいという人の意見の溝は埋まらない。もう少し市民検討会内で意見のやり取りをしやすい雰囲気を作っていただきたい。結局、私が出した意見が採用されなかったのは、事務局として必要ないと判断したからか。
- 事務局とファシリテーター、有識者協議会委員からもご意見を伺いながら整理を行った。結果として採用されない意見もあったが、市民検討会委員が出した意見が全く採用されなかったというわけではない。例えば、「分散パターン」について、名称を変えるべきだという意見があり、「現在地維持パターン」と変更するなど、可能な限り多くの意見を採用できるように調整をさせていただいた。書面開催におけるこのような作業の中では、反映できないものもあったことはご理解をいただきたい。
- ◎ 各検討パターンにおける選択肢の数が同一ではなく、市民アンケートの公平性に疑問も感じる。また、アンケートをあの時期に行わなければならなかったのはなぜか。
- 今回行ったアンケートの目的は、4つの検討パターンに優劣をつけることではないため、選択肢の数を無理に揃えるようなことはしなかった。今後の検討を進めていく上では必要だという考えでアンケートを行ったところである。

- ◎ 以前、市民アンケートの実施を提案されたときに、市民検討会の場でもっと意見交換ができるのかと思っていたが、できなかった。どんどん先へと進んでいってしまうと感じている。もっと意見が出るように進めていただきたい。
- ◎ 私たちの役割として、12月までに方向性を決めることはとても大切だと思うが、どんな方法になったとしても、真剣に市民アンケートに回答してくれた方をはじめ、一人でも多くの市民が納得できるような説明を残すことが大事だと思う。市民検討会で長い時間をかけて話し合いをしてきた結果、方向性がこういった理由で良いと思ったので判断をさせてもらったというようなことを、最終的に市民の方に分かってもらえたらよいと思う。
- 次回の議論内容にまで踏み込んでおり、予定の時間も迫っているので、本日のやり取りはここまでとしたい。本日の議論については、事務局に整理していただき、次回の進め方について、有識者協議会委員にも相談をいただければ、何か助言できるのではないかと考えている。12月末までに、まとめのようなものを作るのか、まとめではなく色々な論点を集中的に議論していくというやり方もある。次回の市民検討会で12月末までの進め方を決めていきたい。

【有識者協議会委員による講評】

・小山委員

今日の市民検討会委員の意見を聞いていて、すれ違いというほどではないが、検討を進めていくにあたり、共有しておくべきことが見えたように感じる。有識者協議会委員が求められている役割についても、再確認をさせていただいた。

・野口委員

市民アンケートの中でも財政の話が出ていたと思う。一番スピード感を持って進めるのであれば、今後どこかのタイミングで4つの検討パターンの概算事業費を出さざるを得ないのだと思う。それによって反対意見もあると思うが、検討を進めていく上では必要なことだと考えている。

・山口委員

事業として最終的に実行していくには、1つのパターンしか実現できない。各検討パターンの特徴はある程度整理できており、また、市民アンケートにより、どの検討パターンもある程度共感を得られたことが分かった。今後は、財政的な制約を考慮した上で、どれくらいの規模であれば実行可能なのか、各検

討パターンでできること、できないことを検討してはどうか。また、財政的な制約を踏まえて各検討パターンでできることを比較し、4つの検討パターンの中でどれが最も望ましいのか、考えてみてはどうか。

最終的に市民検討会でどんな検討を行うかは、市民検討会委員の考えに基づき決めていただければと思うが、ゴールを意識しながら検討を進めていかないと、意見が集約できず、いつまで経っても事業として進められないのではないかと心配している。

・杉崎委員

なぜこんなに時間をかけて検討しているのか、戸惑っている。市民検討会委員は熱心に議論しているので、事務局に対して言いたいことがたくさん出てきた。行財政構造改革プランの資料を出しながら、一方では4つの検討パターンを自由に議論してくださいという進め方では、いつまで経っても事業として進められないのではないか。価値観の優先順位が固まっていないため、このまま進めても決められないのではないか、というのが率直な感想である。

何を重視するか、市民検討会委員の中でも様々な価値観がある。いずれにしても、パターンを決めるのか、決める際の判断基準を整えるのか、ゴールはどちらかになるのではないか。もう少し進め方を工夫してもよいのではないか。

・鈴木委員

進行の中で色々と意見を言わせてもらったので、特に言うことはない。

3 その他

事務局より、7月5日までに意見聴取の回答用紙を出していただくようお知らせした。

また、第12回市民検討会の日程については未定であることを伝えた。

以 上

出 欠 席 名 簿

まちづくりワーキンググループ

氏 名	出欠席
飯田 秀雄	出席
植田 憲司	欠席
茅 弘秋	出席
今 美和子	出席
佐野 玲希	欠席
白石 一郎	欠席
畑 耕一	出席
松下 和則	欠席
山林 亮太	欠席
渡辺 章	欠席

公共施設ワーキンググループ

氏 名	出欠席
太田 裕	出席
小方 明	出席
小野澤 行雄	出席
上遠野 イク子	欠席
金 愛蓮	出席
佐伯 明美	出席
高柳 眞木子	出席
平本 峻	出席
靱井 結希	出席
矢部 裕子	出席

公園ワーキンググループ

氏 名	出欠席
飯沼 容子	欠席
荻野 弓希子	出席
荻原 ますみ	欠席
城田 大介	欠席
狭間 宏明	欠席
北條 幸治	出席
三森 吉徳	欠席
山口 清孝	欠席

有識者協議会委員

氏 名	出欠席
押田 佳子	欠席
小島 仁志	欠席
小山 憲司	出席
杉崎 和久	出席
鈴木 眞理	出席
野口 直人	出席
山口 直也	出席